

関係機関と連携・協働した様々な取り組みを推進 美瑛高校「コミュニケーション・シヨントレーニング」

仲間と協力して様々なことに挑戦する協働の精神を養成。外部講師を招いた講義を採り入れるなど多様性のある柔軟な教育活動に取り組み美瑛高校で4月26日、1学年29人の生徒を対象とした「コミュニケーション・シヨントレーニング」が行われた。当日は外部講師として国立大雪青少年交流の家の和泉友喜氏、阿部晋之介氏が講師に招かれ講義を担当。「様々な課題を仲間と協力して解決できるよう生徒間の関係

づくりを図る」、「話し合いの基本となるコミュニケーション能力について理解・意識付けを図る」といったことを目的としたプログラムが組まれた。同トレーニングは例年、宿泊研修で実施されていたが、行事等の見直しの中で校内でも実施可能ということから、今年度は体育館を会場として実施。生徒たちは、アイスブレイクから自己開示、グループワーク・トレーニングといったプログラムを体験した。特にグループワークでは、今後



の探究活動を視野に入れ、他者と協働する楽しさを知ってもらうことに重点が置かれ、和やかな雰囲気の中

で生徒たちは楽しみながらコミュニケーションのスキルを磨いた。プログラムを体験した生徒たちは「全員が発言できるような気を配ることが大切と分かった」、「これからもみんなで力を合わせて活動したい」など感想。学校生活では、文化祭や体育祭をはじめ協働作業の場は数多くあり、実社会でもコミュニケーション能力は大切となる。美瑛高校では、そのような生徒の資質・能力の育成のため、関係機関と連携・協働した様々な取り組みを展開している。
(写真・内容は美瑛高校提供)